

競技注意事項

1. 競技規則について

本競技会は、2021 年度日本陸上競技連盟競技規則、2020 WA COMPETITION AND TECHNICAL RULES (抗議)、競技会における広告及び展示物に関する規程及び本競技会の申し合わせ事項により実施する。

2. 参加校受付について

参加校受付は、以下の期日、時刻、場所で行う。

アスリートビブス・プログラム・ID カードを配布するので、原則として、代表者が一括で受け取ることにする。

期 日	受付時間	受付場所
9 月 16 日(木)【大会前日】	14 時 00 分～16 時 00 分	競技場正面玄関前
9 月 17 日(金)～9 月 19 日(日)【大会 1 日目～3 日目】	6 時 30 分～閉門時刻	インフォメーション・センター

インフォメーション・センターは、2 ゲート付近に設置する。開門時刻・閉門時刻については【申し合わせ事項】を参照。

3. 練習について

別紙【練習に関する注意事項】を参照。

4. 各種書類について

大会期間中の各種書類の配布及び提出の窓口については、次のとおりとする。

書 類 名	配布場所・提出先
不 出 場 届	テクニカルインフォメーション・センター 【招集所（北サブゲート・200m スタート外側）】
重 複 出 場 届	
リレーオーダー用紙	
質問受付用紙	
記 録 証 明 書	インフォメーション・センター【2 ゲート】
第 4 位から第 8 位までの賞状	

5. 招集について

(1) 招集所は、北サブゲート(200m スタート外側)に設置する。

(2) 種目別、組別の招集時刻は、プログラムの競技日程に記載内容を参照のこと。なお、**招集時刻の 10 分前より招集所内への入場を認める。**

(3) 特別な理由がない限り、招集の際に手指の消毒を行うこと。

(4) 招集の方法は、次のとおりとする。

- ① トラック競技は、招集時刻に招集所に集合し、競技者係から当該種目に出場する競技者本人が点呼を受ける。その際、アスリートビブス、商標及びシューズの点検を行い、腰ナンバー標識を受け取る。
- ② フィールド競技は、招集時刻に招集所に集合し、競技者係から当該種目に出場する競技者本人が点呼を受ける。その際、アスリートビブス、商標及びシューズの点検を行う。やり投に出場する競技者が旧規格のスパイクで参加したい場合は招集所でその旨を招集所審判長に伝えること。その後、競技役員の指示に従い、競技実施場所へ移動する。なお、棒高跳の招集は競技実施場所にて行う。
- ③ **TR6.3.2 に記載の機器及び通信機能を有する機器(ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話、スマートウォッチ)を招集所からミックスゾーンまでの競技場内に持ち込むことはできない。**違反した場合は助力を受けたものとして警告・失格の対象となる。
- ④ **競技に不要な用具を競技場内に持ち込んだ場合は、テクニカルインフォメーション・センターで保管することがある。**
※規程の厚さを超えるようなシューズの中敷きや携帯電話等を競技場内に持ち込むことはできないので注意すること。
- ⑤ **規格外の商標のついた T シャツ等は、雨天の場合を除き、原則として裏返して使用すること。**
競技場内に持ち込むバッグ、シューズケース等の個人所有のアクセサリーについても十分に留意すること。
- ⑥ 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ「重複出場届」に必要事項を記入し、テクニカルインフォメーション・センターに提出する。「重複出場届」は、テクニカルインフォメーション・センター及びインフォメーション・センターにおいて配布する。
- ⑦ 招集時刻に遅れた競技者は、その種目を欠場したものとみなす。
- ⑧ リレー種目に出場するチームは、「リレーオーダー用紙」に必要事項を記入し、各ラウンド(予選、決勝)の第 1 組招集時刻の 1 時間前までに、テクニカルインフォメーション・センターに提出する。「リレーオーダー用紙」はテクニカルインフォメーション・センターに用意してある。なお、リレーチームの編成については TR24.10 [国内] を適用する。

6. 不出場（棄権）について

やむを得ず本競技会への出場を辞退する場合は、次の要領で「不出場届」を提出する。

- (1) 9 月 15 日(水)までは、日本学連HP (<https://www.iuau.jp/>)に掲載してある「不出場届」に必要事項を記入し、FAX (03-5304-5569)で提出する。
- (2) 9 月 16 日(木)は、競技場正面玄関前に用意してある「不出場届」に必要事項を記入し、その場で提出する。やむを得ず、正面玄関において提出できない場合は、FAX (03-5304-5569)で提出する。
- (3) 9 月 17 日(金)以降は、テクニカルインフォメーション・センター及びインフォメーション・センターに用意してある「不出場届」に必要事項を記入し、テクニカルインフォメーション・センターに提出する。やむを得ず、テクニカルインフォメーション・センターに提出できない場合は、FAX (03-5304-5569)で提出する。

7. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、参加校受付の際に 1 名につき 2 枚配布する。
- (2) アスリートビブスは、そのままの大きさと胸と背に確実につける。ただし、跳躍競技に参加する競技者は、胸または背だけでもよい。
- (3)トラック競技に出場する競技者には、腰ナンバー標識(2 枚)を招集時に配布する。なお、腰ナンバー標識は、レース終了後にトランスポンダー付きの腰ナンバー標識のみ回収する。
- (4) アスリートビブスの布地及び数字の色は次のとおりとする。
 ○男子 『黄色地×黒数字』 ○女子 『ピンク地×黒数字』
 ○5000m、10000m、10000mW 『オレンジ地×黒数字』
 ※5000m、10000m 及び 10000mW で使用する特別アスリートビブスは、参加校受付の際に 1 名につき 2 枚配布する。また、招集は特別アスリートビブスをつけた状態で行う。

8. 用具について

- (1) 棒高跳用のポールは、各自が持参したものを使用する。
- (2) その他の競技に使用する用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、投てき競技については、個人所有の投てき物の使用を希望する場合には、(3)に従い検査を受け使用許可を受けることで個人所有の投てき物の使用を認める。
 また新型コロナウイルス感染症対策の観点から、投てき競技については、可能な限り個人所有の投てき物を持参すること。
- (3) 個人所有の投てき物を使用する場合、競技開始時刻の 1 時間 30 分前から 1 時間前までに検査を受ける。検査を経て合格した投てき物に主催者の用意するシールを貼るので、競技終了まではがしてはならない。この場合、個人所有の投てき物については一時的に競技場備品としての扱いとし、他の競技者との共用になる。また、返却は当該種目の競技終了後に返却場所にて行う。検査場所及び返却場所については次のとおりとする。なお、投てき物は一人 2 個まで持ち込める。

用具	検査場所及び返却場所
砲丸、円盤、やり及びハンマー	101 器具倉庫

- (4) 個人所有の用具の破損に関して、主催者側は一切の責任を負わない。
- (5) フィールド競技で使用すべり止め（炭マグ）は、各競技者が準備する。
- (6) 本大会では、規定の厚さを超えるシューズは使用できない。ただし、やり投に出場する競技者が旧規格のスパイクで参加したい場合は招集所でその旨を招集所審判長に伝えること。

※使用可能シューズリスト(URL) : https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202008/15_102058.pdf

【QR コード】



9. 競技について

- (1) トラック競技について
 - ① トラック競技における招集時刻後の練習は、すべて競技役員の指示に従う。
 - ② 短距離種目及びリレー種目については、スタート・インフォメーション・システムを使用して競技を行う。
 - ③ 短距離種目では、衝突事故を防止するため、フィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーンを走る。
 - ④ 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、フィニッシュ後の倒れこみは極力避けること。
 - ⑤ 800m においては、ORD9 および ORD10 に 9 レーンを割り当てる。ただし、欠場者が出た場合レーンを変更することがある。
 - ⑥ 5000m、10000m 及び 10000mW は、気象状況により給水を行う。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、給水所にスポンジは設置せず、すべてペットボトルで行う。
 - ⑦ 5000m、10000m 及び 10000mW においては、周回の確認のため、トランスポンダー付きの腰ナンバー標識を使用する。トランスポンダー付きの腰ナンバー標識は左腰に着用する。
 - ⑧ 10000mW においては、競歩審判員主任による単独失格権限ルール (TR54. 4. 1) を適用する。
 - ⑨ 10000mW においては、男子は 45 分、女子は 55 分で競技を打ち切る。フィニッシュできなかった競技者はその時点で失格とする。

- ⑩ 400m 以下の種目及び障害種目は、レース直前の練習前及び練習後、フィニッシュ後に必ず手指の消毒を行うこと。
- ⑪ ⑨以外の種目は、フィニッシュ後に必ず手指の消毒を行うこと。

(2) フィールド競技について

- ① フィールド競技における招集時刻後の競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- ② 新型コロナウイルス感染症の観点から、試技の待ち時間はマスク等を着用すること。
- ③ 棒高跳の競技場所での練習は、ゴム製バーを用いて行う。
- ④ 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は原則として次のとおりとする。

種目・種別		練習	1	2	3	4	5	6	以降
走高跳	男子	2m00 2m10	2m05	2m10	2m15	2m18	2m21	2m24	+ 3 cm
	女子	1m60 1m70	1m65	1m70	1m73	1m76	1m79	1m81	
棒高跳	男子	4m70 5m00 5m20	4m80	5m00	5m10	5m20	5m30	5m40	+ 5 cm
	女子	3m30 3m60 3m90	3m50	3m70	3m80	3m90	4m00	4m10	

- ⑤ 走幅跳および三段跳は 2 ピットで実施する。
- ⑥ 三段跳の踏切板の位置は、男子 13m、女子 11m とする。
- ⑦ 投てき競技の競技場内での練習は、1 回につき 60 秒以内とする。
- ⑧ 投てき競技の計測は、光波距離測定装置を使用する。ただし、砲丸投の計測は鋼鉄製の巻尺を使用する。
- ⑨ 試技前に必ず手指の消毒を行うこと。

(3) 混成競技について

- ① 招集は、各日最初の種目に限り招集所にて行う。それ以後の招集は行わないので、混成競技者は次の種目から混成競技者控室にて待機し、競技役員の指示に従う。
- ② 混成競技における招集時刻後の競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- ③ 混成競技控室として本競技場内トレーニング室 1 を使用する。該当種目の競技者及び競技役員以外の混成競技控室への立ち入りは一切禁止とする。
- ④ 走幅跳は 2 ピット、高さの跳躍種目は 2 ピットで実施する。
- ⑤ 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は原則として次のとおりとする。

種目・種別		練習	1	2	3	4	5	6	以降	
十種 競技	走高跳	低	1m60 1m75	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	+ 3 cm
		高	1m80 1m90	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	1m96	
	棒高跳	低	3m40 3m80	3m40	3m60	3m80	4m00	4m10	4m20	+ 10 cm
		高	3m80 4m20	3m80	4m00	4m10	4m20	4m30	4m40	
七種 競技	走高跳	低	1m35 1m45	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	+ 3 cm
		高	1m45 1m55	1m50	1m55	1m60	1m63	1m66	1m69	+ 3 cm

- ⑥ 試技前に必ず手指の消毒を行うこと

(4) 競技結果と番組編成について

- ① 各種目の結果の正式発表は大型スクリーンにて行う。
- ② タイムにより次のラウンドに進む競技者の決定について、同記録の競技者がいる場合は、写真判定員主任が 0.001 秒単位の時間を判定

して決定する。それでも決まらない場合は、当該競技者または代理人による抽選とする。

③競技結果等は記録処理終了後、随時、日本学連 HP にて発表する。（大会プログラム表紙の QR コード参照）

PC用サイト <https://www.iuau.jp/> スマートフォン用サイト <https://www.iuau.jp/sp1/index.html>

(5) その他

競技規則を厳格適用し、CR18.5 及び TR7.2 の適用により警告を 2 回受けた競技者は失格となり除外処分対象となるので、この競技会における以後のすべての種目に出場できなくなる。

10. 抗議と上訴について

競技結果の正式発表時刻は大型スクリーンに発表された時刻を基準とする。競技の結果または競技進行中に起きた競技者の行為に関する抗議は、競技結果が大型スクリーンに発表されてから、競技規則に定められた時間内に、その競技者または代理人がテクニカルインフォメーション・センターに申し出る。その後、担当総務員を通して審判長に対して口頭で抗議を行う。さらに、この裁定に不服の場合は預託金（1万円）を添え、競技規則に定められた時間内に、その競技者または代理人が担当総務員を通して Jury に文書で申し出る。

なお、抗議については、TR8.4〔国際〕及び TR8.5〔国際〕を適用し、競技エリアで競技者本人から当該審判長が抗議を受け付け、裁定する場合がある。不正スタート及びフィールド競技の判定に対して競技者自身が異議のある場合には、直ちに該当審判長に申し出ることができる。

11. ドーピング・コントロール・テストの実施について

(1) ドーピング・コントロール・テストは、日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟の規則に従い実施する。ドーピング・コントロール・テストを指示された競技者は、競技役員の手配に従ってテストを受ける。その際、顔写真付きの本人確認書類が必要となるので、顔写真のついた学生証、運転免許証、写真が鮮明なパスポートコピー等を携帯すること。

(2) 禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例（TUE）”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ (<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>)、又は日本アンチ・ドーピング機構ホームページ (<https://www.playtruejapan.org/>) および日本学生陸上競技連合 HP (<https://www.iuau.jp/index.html>) 内の「知っておきたいアンチ・ドーピングの知識 2021 年版」を確認すること。

12. 対校得点について

(1) 対校得点は各種目、第 1 位が 8 点、第 2 位が 7 点、第 3 位が 6 点、第 4 位が 5 点、第 5 位が 4 点、第 6 位が 3 点、第 7 位が 2 点及び第 8 位が 1 点とする。なお、同順位により、対校得点を割る場合には小数計算を行う。その計算は記録センターで行う。

(2) 対校得点が同点の場合、優勝種目数の多い方を上位とする。（優勝種目数が同数であれば、第 2 位入賞種目数の多い方を上位とする。以下同様。第 8 位入賞種目数まで同じ場合は、同順位とする。）

13. 表彰について

(1) 総合・トラック・フィールド・混成の男女各部門において対校得点による順位が最上位であった大学には、閉会式にて賞典を授与する。

(2) 男女各種目において第 1 位に入賞した競技者が最も多かった大学には、閉会式にて賞典を授与する。

(3) 各種目の第 1 位から第 3 位までに入賞した競技者には、メダルと賞状を表彰式にて授与する。競技終了後、速やかにエントランスホール内の表彰対象者待機場所まで集合すること。

(4) 表彰式の際の服装は、待機場所で配布するプレゼンテーションビブスをつけて、公式 T シャツあるいはジャージを着用し、下は公式ジャージを着用すること。

(5) 第 4 位から第 8 位までに入賞した競技者には賞状を授与するので、インフォメーション・センターにて受け取る。

(6) 総合・トラック・フィールド・混成の男女各部門において対校得点による順位で第 1 位から第 8 位までに入賞した大学には賞状を授与するので、インフォメーション・センターにて受け取る。

(7) 表彰を受ける競技者に対する記念撮影及び声掛け等は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から行わないこと。

(8) 表彰対象者は、原則としてマスク等を着用して表彰式で表彰を受けること。

14. その他

(1) ID コントロールを実施するので、配布した ID カードは常に携帯し、大学名および氏名を必ず記載すること。

(2) 本大会は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、トレーナー活動場所は設定しない。

(3) スタートとフィニッシュの場所が異なるトラック競技では、招集所で配布された袋に入れられた衣類等をフィニッシュ地点付近まで運搬する。

(4) 競技終了後、必ずミックスゾーンを通過し、主催者が許可した報道関係者の取材を受けること。また、表彰式終了後もインタビューを受けることがあるので協力すること。

- (5) 大会期間中の貴重品の管理は各自で行う。なお、大会期間中に主催者に届けられた物品等については、一時的にインフォメーション・センターにて保管するが、その他の盗難及び紛失に関しては、一切の責任を負わない。
- (6) **本競技場での競技運営に関する事以外での芝生への立ち入りは一切禁止とする。**
- (7) 競技中に発生した傷害及び疾病等についての応急処置は主催者において行うが、それ以後の責任は一切負わない。ただし、2021 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。なお、インフォメーション・センターにおいて、スポーツ安全保険の事故報告書を配布する。
- (8) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部及び競技場側の許可なく手配をしない。手配する場合は、大会本部より車両の手配を行うので、その際は、詳細を含め大会本部に連絡する。
- (9) その他、不明な点はインフォメーション・センターに問い合わせること。